

学 校 名	山形市立第十小学校	校 長 長 谷 川 義 隆
	〒990-0835 山形市やよい二丁目6番1号 TEL643-4102 FAX645-8590	研究主任 豊 田 久 美 子
研 究 主 題	「夢や願いに向かって 自分たちの学びを 力強く創造する子ども (1年次)」	
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、昨年度より、学校教育目標や本校の子どもたちの実態、昨今の教育的ニーズをもとに、研究主題の見直しを図ってきた。授業で見られる表面的な子どもの姿を追求するような研究ではなく、子どもの未来に役立つ実践力や活用力を高めるような教育活動を展開していこうという、私たち教職員の強い思いから、冒頭のような研究主題を設定した。</p> <p>この研究主題に込めた思い（意味）は、次のとおりである。</p> <p>「夢や願い」・・・強い課題意識、めあて意識、未来への夢、強い思い・願い等 「自分たちの」・・・みんなで力を合わせて、かかわりを深めながら等 「学び」・・・教科の学び（学習の基礎基本も含む）、総合的な学習の学び、行事における学び等 「力強く創造する」・・・学びや活動を切り拓く、生き方やあり方を深める、活用力や実践力を身につける、考え方や学び方を高める等</p> <p>子どもが学びを自分ごととして受け止め、強い願いや思いを抱いたとき、自ら対象とかかわったり、必要感に駆られて仲間と交流したりするだろう。このような主体的で協働的な価値ある学びは、自分のあり方・学び方・考え方の高まりの気づきに繋がっていく。そうした教育活動の積み重ねにより、子どもの自尊感情や実践力・活用力の高まりに結びついていくものと信じている。</p> <p>また、本校では、育ちを実現する教育活動の創造のために、『3つの柱』を重要な3要素と捉えて実践を展開している。教職員全員で教育の方向性を確かめたり、授業づくりや支援のあり方、教師の意識についての共通理解を図ったりするためである。</p> <p>◎主体的な学び・・・・・・・・課題を自分ごととして捉え、主体的に学ぶ。 ◎必要感のある交流・・・・・・・・必要感をもってかかわり、学びを高める。 ◎高まりの自覚と新たな挑戦・・・自己の高まりを自覚し、新たな問いをもつ。</p> <p>全ての教科・領域にわたって、この3つの柱をもとに教育活動を創造してきたことにより、子どもたちの主体性や協働性・ふり返る力が高まってきている。</p> <p>第6次山形県教育振興計画が、昨年度より実施されている。また、文部科学省では、子どもたちの「資質・能力の向上」と、その具現化に向けた「アクティブ・ラーニング（AL）」の重要性を強調している。本校の研究は、人としての生き方やあり方を追究する「ひとづくり」であり、そうした「子どもの未来を見据えた教育的ニーズ」にも結びつくものと考えている。</p>	

<p>研究の目標</p>	<p>子どもの実態から期待する姿をイメージし、その具現化に向けて、『研究の3つの柱』をもとに教育活動を創造したり、教師の支援のあり方を追究したりして、「子どもの育ちを実現できる学校」をめざす。</p>
<p>研究の内容</p>	<p>【子どもの育ちを実現するイメージ図】 以下のイメージ図にある「3つの柱」で、全ての教科・領域を貫くことにより、子どもの育ちが実現できると考えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>研究主題 「夢や願いに向かって 自分たちの学びを 力強く創造する子ども」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>全ての教科・領域</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%; text-align: center;"> <p>主体的な学び</p> <p>課題を自分ごととして捉え、主体的に学ぶ</p> </div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%; text-align: center;"> <p>必要感のある交流</p> <p>必要感をもってかかわり、学びを高める</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 20%; text-align: center;"> <p>日々の語り合いによる学び</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 50%; text-align: center;"> <p>高まりの自覚と新たな挑戦</p> <p>自己の高まりを自覚し、新たな問いをもつ</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 20%; text-align: center;"> <p>授業研究会等の実践を通じた学び</p> </div> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子どもの実態（成長・課題）</div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>期待する姿</p> </div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">教育的ニーズ（6教振等）</div> </div> <p>子どもを深く理解し、「どんな活動が子どもを本気にさせるのか」「どんな支援をすれば、必要感や有用感のある交流に結びつくのか」「どのようにすれば、子どもは自分の高まりに気づき、新たな問いをもつのか」等を日常的に探り、子どもの育ちを実現していくことが、本校の研究である。</p>
<p>研究の方法</p>	<p>1. 子どもの育ちに結びつく授業のあり方(授業づくりのあり方)や教師の支援を学ぶ。</p> <p>(1) 提案授業 学年部より1授業を提案し、全員が参加する研究会。ただし、事前研究会は学年部が主体となって最低2回実施し、その内1回は推進委員も参加する。また、他の学年も自由に参加してもよい。</p> <p>(2) マイ授業 提案授業者以外が行う学年部の授業研究会。事前・事後研究会は、学年部が主体となって行うが、学年を越えて自由に参加してよい。今年度は、市教委計画訪問での授業実践をマイ授業とし、夏休みを利用して授業づくりのあり方についての研修会を学年部等で企画して学び合う。</p>

研究の方法	<p>2. 研究の日常化（育ち追究の日常化）を図るために、学年で活動する行事や総合的な学習等における「教師の支援のあり方」を追究する。</p> <p>(1) 学年で活動する行事や総合的な学習（生活科）などにおける育ちの追究 日常的に子どもの主体性を高めるために、学年担任で子どもの実態をもとにした「期待する子どもの姿」やそれに向けた「活動内容」「教師の支援（特に意識付けを重視）」を検討しながら実践にあたる。</p> <p>(2) 子どもの育ちや教師の支援のあり方についての共有化 授業研究だけでなく、学年全体の活動における教師の支援（意識）のあり方について、研究全体会で共有する。</p>
-------	---

研究の計画	<p>年度当初</p> <p>4月 ◆研究概要の確認と見直し・研究計画・研究の組織づくり</p> <p>5月 ◆研究全体会（研究の概要、組織、計画等の確認）</p> <p>6月 ◆各学年部の提案授業の講師招聘及び日程調整</p> <p>7月 ◆研究全体会（ここまでの研究の成果・課題）</p> <p>8月 ◆研究全体会（研修会）、マイ授業（計画訪問授業）事前研究会</p> <p>9月 ◆低学年部提案授業1 ※各事前研究会は、最低2回。 ◆中学年部提案授業1 内1回は推進委員も参加する。 ◆高学年部提案授業1 ※提案授業は、研究全体会に位置 ◆特別支援提案授業1 づけ、全員参加とする。 ◆マイ授業：提案授業者以外の学年部主体の研究会</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月 ◆研究全体会（ここまでの研究の成果・課題） ◆研究実践集作成についての提案</p> <p>1月 ◆研究実践集完成 ◆学年のふり返り</p> <p>2月 ◆研究全体会（年間の研究の成果・課題、次年度の方向性）</p> <p>3月 ◆次年度の研究の方向性決定 ◆研究実践集の発送</p> <p>※ 研究推進委員会は、必要に応じて召集し、協議する。 ※ 上記以外の会議については、研究推進委員会で必要と認められた場合に実施する。</p>
-------	---

